対象：2024 年度入学生（24 ●●●●）～

アート・デザイン表現学科

1．教育内容

アート・デザイン表現学科は、アートとデザインの領域を横断、融合し、他分野との中間領域を開拓しながら、独創的な発想力と表現力を培うことを教育目標としています。時代の変化に柔軟に対応できる深い知識と斬新な感性を育み、コミュニケーション能力に長け、国際社会の幅広い分野で創造的に活躍できる人材を育成します。芸術表現や造形表現に関する知識と基本的な技能や技法を習得し、人間生活や人間環境に関する基礎的な知識の理解、創造性や独自性のある表現力、芸術関連分野と社会を結ぶ実践的な企画力や管理・運営能力、共同制作能力を身に付け、人間中心の視点からアートとデザインを捉え、時代の変化に柔軟に対応し、多様化する社会の幅広い分野で活躍できる人材や専門家を養成します。

2．カリキュラム編成の特徴

学科共通科目は、アートとデザインに関する基礎を学ぶための導入科目として、「アート・デザイン基礎演習A」、「宇宙・人間・アート」、「アート・デザイン表現論」を必修科目として配置します。各領域に対する基本的な理解を深めるための科目として、「アート・デザイン表現演習Ⅰ」を配置し、領域間コラボレーションを行う「アート・デザイン表現演習Ⅱ」、また5領域全体でプロジェクトに取り組む「アート・デザイン表現演習Ⅲ」を必修科目としています。アート・デザイン表現学科のカリキュラムの大きな特徴として、学科共通科目を１年次から３年次に渡って実施します。１年次では、領域に分かれ各専門領域の基礎を学びます。２年次では、他領域の専門科目を学ぶことができる演習科目があります。３年次では、コミュニケーションとコラボレーションを重視した領域間、学科全体で実施する演習科目を配置し、領域を超えた中間領域が開拓できるカリキュラム編成になっています。

アート・デザイン表現学科 教育目標・人材の養成に関する目的	アート・デザイン表現学科は、アートとデザインの領域を横断、融合し、他分野との中間領域を開拓しながら、独創的な発想力と表現力を培うことを教育目標としている。人間中心の視点からアートとデザインを捉え、時代の変化に柔軟に対応できる深い知識としなやかな感性を持ち、多様化する社会の幅広い分野で活躍できる人材や専門家の養成を目的とする。

科目区分	ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	授業科目（学科共通科目）
アート・デザイン表現学科	アート・デザイン表現学科においては、以下を学位授与の条件とします。		教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。	
	【知識・理解】 （教養力・基礎的専門性）	アートとデザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。	アートとデザインに関する基本となる知識と、時代に沿った様々な技術や技法を理解し、アートとデザイン分野における幅広い活用について理解する科目を配置する。	1年次 【講】宇宙・人間・アート 【講】アート・デザイン表現論 【演】アート・デザイン表現基礎演習A 【選演】アート・デザイン表現基礎演習B 【選演】アート・デザイン表現基礎演習C 【選演】アート・デザイン表現基礎演習D
	【関心・意欲・態度】 （主体性・開拓力・チームワーク・柔軟性）	アートとデザインの諸活動の実践により、専門領域のみならず、他分野への興味、関心をもちながら課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働しながら、発想し、表現する能力と態度を身に付けている。	アートとデザインを中心に他領域、他分野とのコラボレーションを通して、専門領域のみならず様々な立場の人と協働しながら発想力、表現力、実践力を養うための科目を配置する。	3年次 【演】アート・デザイン表現演習Ⅱ 【演】アート・デザイン表現演習Ⅲ
		時代を経ても変わらない人間の本質と向き合いながら、社会変化、環境変化、技術革新に対応し得るしなやかな精神力とメソッドとを持ち合わせ、自己実現することのできる能力と態度を身に付けている。	人間中心の視点に立ち、環境やテクノロジーの変化を捉え対応することができる能力を身に付け、創造的、独創的な発想力を養うための科目を配置する。	
	【思考・判断】 （総合的判断力・創出力）	幅広い知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けている。	5領域の様々な融合分野と多様な他分野との中間領域を創出し、環境や社会の変化に柔軟に対応できる思考力、判断力を養うための科目を配置する。	3年次 【選演】アート・デザイン表現演習Ⅲ
	【技能・表現】 （創作力・実装力）	領域横断型の実践的な学びを通し、専門領域のみならず、他分野との中間領域を開拓するための表現力、実践力を身に付けている。	5領域の其々の特性を理解し、表現のための技法を習得し、多様な分野との中間領域を開拓し創造的な活動に活用できる科目を配置する。	2年次 【選演】アート・デザイン表現演習Ⅰ

対象：2024 年度入学生（24 ●●●●）～

アート・デザイン表現学科 メディア表現領域

1．教育内容

メディア表現領域の授業では、メディア表現の多様な素養とアートとデザイン分野における幅広い知識を学びます。他領域、他分野とのプロジェクトやコラボレーションに取り組み、発想力やコミュニケーション力を鍛え、表現力、実践力を養います。新しい知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、先端的なテクノロジーや表現ツールを活用して、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けます。様々な分野との中間領域の開拓や創造的な活動に発展させることができる教育を行い、独創的な表現ができるアーティスト、デザイナー、クリエイターを育成することを目標にします。

2．カリキュラム編成の特徴

メディア表現領域では、アートとデザインの基礎を重視した上で、先端的なテクノロジーを活用した表現の教育を行うと共に、アート・デザイン・エンターテイメントの各分野での表現に必要な専門科目でカリキュラムを構成しています。

１年次では、「アート・デザイン表現基礎演習A」でICT活用の基礎とコンプライアンスについて学んだ後、メディア表現の基礎となる様々な技術や表現を学びます。「メディア表現演習01」で実写を中心とした映像表現、「メディア表現演習02」でグラフィックデザインの基礎と各種発想法を、「メディア表現演習03」では音楽・SE・声などメディア作品に重要な要素であるサウンド制作を行い、「メディア表現演習04」でリアル空間のマテリアルやスケール感を理解した上で「メディア表現演習05」仮想空間の概念を学び3DCGでの空間表現を行いリアルとバーチャルを繋げます。また「メディア表現演習06」ではUI/UXデザインを含むスクリーンベースのデザインを行い、「メディア表現演習07」プログラムを学び、インタラクティブな体験型コンテンツを制作します。
２年次では、「メディア表現演習08」で様々なアニメーション表現を行い、「メディア表現演習09」でキャラクターデザインと商品企画を、そして「メディア表現演習10」「メディア表現演習11」「メディア表現演習12」では新たな学びと共に領域を超えた複合的な表現にチャレンジします。
３年次では、「アート・デザイン表現演習Ⅱ」「アート・デザイン表現演習Ⅲ」「プロジェクト&コラボレーション演習」各授業で、他領域や、企業や他大学、地域などとコラボレーションを通して、実践力とコミュニケーション力を養います。「メディアクリエイション演習01」「メディアクリエイション演習02」「メディアクリエイション演習03」では、各自の専門性を高め、4年次は集大成となる「卒業制作」を行います。

アート・デザイン表現学科 メディア表現領域 教育目標・人材の養成に関する目的	メディア表現領域では、人間の感覚を理解し、グローバルに変わり続けるメディア環境の中で適切な情報・表現を選び使う能力を養い、多様な表現への挑戦と時代や社会の状況に対応できるクリエイティブな人材の育成を教育目標とする。

科目区分	ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	授業科目
アート・デザイン表現学科　メディア表現領域　専門科目	アート・デザイン表現学科においては、以下を学位授与の条件とします。		メディア表現領域においては、教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。	
	【知識・理解】 （教養力・基礎的専門性）	アートとデザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。	メディア表現の多様な素養とアートとデザイン分野における幅広い知識を学び、メディア表現を行う上で必要となる表現技術・技法を学ぶ科目を配置する。	1年次 【講】宇宙・人間・アート 【講】アート・デザイン表現論 【講】メディア概論 【演】メディア表現演習01/【演】メディア表現演習02 【演】メディア表現演習03/【演】メディア表現演習04 【演】メディア表現演習05/【演】メディア表現演習06 【演】メディア表現演習07 【演】アート・デザイン表現基礎演習A 2年次 【演】アート・デザイン表現演習Ⅰ 【演】メディア表現演習08/【演】メディア表現演習09 【演】メディア表現演習11/【演】メディア表現演習12 【演】メディアクリエイション基礎演習02 【演】メディアクリエイション基礎演習03 3年次 【演】メディアクリエイション演習01 【演】メディアクリエイション演習02 4年次 【演】メディアクリエイション実習
	【関心・意欲・態度】 （主体性・開拓力・チームワーク・柔軟性）	アートとデザインの諸活動の実践により、専門領域のみならず、他分野への興味、関心をもちながら課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働しながら、発想し、表現する能力と態度を身に付けている。 時代を経ても変わらない人間の本質と向き合いながら、社会変化、環境変化、技術革新に対応し得るしなやかな精神力とメソッドとを持ち合わせ、自己実現することのできる能力と態度を身に付けている。	メディア表現領域ならではの表現技法を活かし、他領域、他分野とのプロジェクトやコラボレーションに取り組み、発想力やコミュニケーション力を鍛え、表現力を高め、実践力を養うための科目を配置する。	1年次 【演】メディア表現演習03/【演】メディア表現演習05 2年次 【演】アート・デザイン表現演習Ⅰ 【演】メディア表現演習10/【演】メディア表現演習11 【演】メディア表現演習12 【演】メディアクリエイション基礎演習02 3年次 【選講】デジタル知的財産概論 【演】アート・デザイン表現演習Ⅱ 【演】アート・デザイン表現演習Ⅲ 【演】プロジェクト＆コラボレーション演習 【演】メディアクリエイション演習01 【演】メディアクリエイション演習02 【演】メディアクリエイション演習03 4年次 【演】メディアクリエイション実習
	【思考・判断】 （総合的判断力・創出力）	幅広い知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けている。	新しい知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、先端的なテクノロジーや表現ツールを活用して、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けるための科目を配置する。	1年次 【演】メディア表現演習04/【演】メディア表現演習06 【演】メディア表現演習07 2年次 【演】アート・デザイン表現演習Ⅰ 【演】メディア表現演習08/【演】メディア表現演習09 【演】メディア表現演習10/【演】メディア表現演習11 【演】メディア表現演習12 【演】メディアクリエイション基礎演習02 【演】メディアクリエイション基礎演習03 3年次 【演】アート・デザイン表現演習Ⅱ 【演】アート・デザイン表現演習Ⅲ 【演】プロジェクト＆コラボレーション演習 4年次 【演】メディアクリエイション実習 【演】卒業制作
	【技能・表現】 （創作力・実装力）	領域横断型の実践的な学びを通し、専門領域のみならず、他分野との中間領域を開拓するための表現力、実践力を身に付けている。	メディア表現の多様性を理解し、人間中心の視点からテクノロジーを自在に活用できる力を養い、多様な分野との中間領域を開拓し創造的な活動に活用できる科目を配置する。	1年次 【演】アート・デザイン表現基礎演習A 【演】メディア表現演習01/【演】メディア表現演習02 【演】メディア表現演習03/【演】メディア表現演習04 【演】メディア表現演習05/【演】メディア表現演習06 【演】メディア表現演習07 2年次 【演アート・デザイン表現演習Ⅰ 【演】メディア表現演習08/【演】メディア表現演習09 【演】メディア表現演習11/【演】メディア表現演習12 【演】メディアクリエイション基礎演習02 【演】メディアクリエイション基礎演習03 3年次 【演】アート・デザイン表現演習Ⅱ/ 【演】アート・デザイン表現演習Ⅲ 【演】プロジェクト＆コラボレーション演習 【演】メディアクリエイション演習01 【演】メディアクリエイション演習02 【演】メディアクリエイション演習03 4年次 【実】メディアクリエイション実習 【実】卒業制作

対象：2024 年度入学生（24 ●●●●）～

アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現領域

1．教育内容

ヒーリング表現領域では、アートとデザインを通じて、ウェルビーイング＊を追求し、将来の豊かな社会を構想し、その実行に必要な専門的な知識、対話力、発想力、企画力を備え、表現に展開できる人材や専門家の育成を教育目標としています。

女子美術大学にアート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域が開設されたのは２０１０年のことです。社会に求められている「癒し」を、アートとデザインを通じて追求してく日本で初めての領域でした。癒しとは何か？アートとデザインは、何をすることができるのか？これらの問いに取り組みながら、教育・研究と実践を重ねてきました。

この間、「癒し」は消費物として一般化し、記号化し、社会に飽和していきました。「癒し」は多義性を帯び、その在り方、捉えられ方も、この世界と同じように変化していきます。

医療、福祉、教育などの人とひとが交わる場にアート･デザインを届ける「ヒーリングアート」。人とひと、人と社会の間に持たれる関係性をアートアクティビティーで育む「リレーショナルデザイン」。すべての人に開かれた「絵本表現」。アートとデザイン、双方の視点からアプローチする「ぬいぐるみ表現」。そして、これらのクリエイティブと伴走していく「キャラクターデザイン」と「イラストレーション」。

ヒーリング表現領域は、現象としての癒しへの洞察を深め、アートとデザインを通じて癒しの先にあるウェルビーイングを目指します。

＊ウェルビーイング（well-being）：人が身体的、精神的、社会的に充足した状態。それが持続すること。

2．カリキュラム編成の特徴

［１年次］

アートとデザインの幅広い知識を学び、多様な素材と手法に触れ、「癒し」という概念を多角的に捉えていくための科目を設置します。

［２年次］

領域横断型の授業を通じて他領域への理解を深めながら、自律的に学び続けられる力を養う科目を設置します。

［３年次］

社会課題と自己課題を発見し、それに取り組んでいける柔軟な思考力、発想力、判断力を身に付ける科目を設置します。また、他領域との協働を通じて中間領域を開拓する科目を設置します。

［４年次］

ヒーリング表現領域の専門性に立って創造的な活動ができる科目を設置します。

また、ヒーリング表現領域の専門科目を設置します。これは実技系科目と相互補完していくものであり、知識を深め、理論的に考察を積み上げていく力を身につけるためのものです。

１年次開設科目：「ヒーリング表現概論」「ウェルビーイングとアート論」

２年次開設科目：「キャラクター文化論」「絵本芸術論」

３年次開設科目：「芸術社会論」「エビデンスベース入門」「芸術療法概論」

アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現領域 教育目標・人材の養成に関する目的	ヒーリング表現領域では、アートとデザインを通じて、人がより良く生きることを追求し、将来の豊かな社会を構想し、その実行に必要な専門的な知識、対話力、発想力、企画力を備え、表現に展開できる人材や専門家の育成を教育目標とする。

科目区分	ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	授業科目
アート・デザイン表現学科　ヒーリング表現領域　専門科目	アート・デザイン表現学科においては、以下を学位授与の条件とします。		教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。	
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	アートとデザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。	アートとデザインの幅広い知識を学び、多様な素材と手法に触れ、「癒し」という概念を多角的に捉えていくための科目を設置する。	1年次 【演】アート・デザイン表現基礎演習A 【演】基礎ドローイング演習 【演】基礎マテリアル演習 【演】イラストレーション演習Ⅰ 【演】キャラクターデザイン演習Ⅰ 【講】ヒーリング表現概論 【講】アート・デザイン表現論 【講】宇宙・人間・アート 2年次 【演】スタートアップ演習 【講】キャラクター文化論 【講】絵本芸術論 3年次 【講】エビデンスベース入門 【講】芸術療法概論
	【関心・意欲・態度】 (主体性・開拓力・チームワーク・柔軟性)	アートとデザインの諸活動の実践により、専門領域のみならず、他分野への興味、関心をもちながら課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働しながら、発想し、表現する能力と態度を身に付けている。 時代を経ても変わらない人間の本質と向き合いながら、社会変化、環境変化、技術革新に対応し得るしなやかな精神力とメソッドとを持ち合わせ、自己実現することのできる能力と態度を身に付けている。	領域横断型プロジェクトやゼミナール形式の授業を通じて他領域への理解を深めながら、自律的に学び続けられる力を養う科目を設置する。	1年次 【演】コミュニケーションデザイン演習 2年次 【演】アート・デザイン表現演習Ⅱ 【演】イラストレーション演習Ⅱ 【演】キャラクターデザイン演習Ⅱ 【演】ヒーリング・アート演習Ⅰ 【演】絵本表現演習Ⅰ 【演】ぬいぐるみ表現演習Ⅰ 3年次 【選演】ヒーリング・アート演習Ⅱ 【演】プロジェクトプロデュース演習
	【思考・判断】 (総合的判断力・創出力)	幅広い知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けている。	社会課題と自己課題を発見し、それに取り組んでいける柔軟な思考力、発想力、判断力を身に付ける科目を配置する。	1年次 【講】ウェルビーイングとアート論 【演】ナラティブ発見演習 3年次 【演】アート・デザイン表現演習Ⅲ 【選演】リレーショナルデザイン演習 【実】ヒーリング表現Ⅰ 【講】芸術社会論
	【技能・表現】 (創作力・実装力)	領域横断型の実践的な学びを通し、専門領域のみならず、他分野との中間領域を開拓するための表現力、実践力を身に付けている。	他領域との協働を通じて中間領域を開拓し、ヒーリング表現領域の専門性に立って創造的な活動ができる科目を配置する。	2年次 【演】アート・デザイン表現演習Ⅰ 3年次 【選演】絵本表現演習Ⅱ 【選演】ぬいぐるみ表現演習Ⅱ 4年次 【実】ヒーリング表現ⅡA 【実】ヒーリング表現ⅡB 【実】ヒーリング表現ⅡC 【実】ヒーリング表現ⅡD 【実】ヒーリング表現ⅢA 【実】ヒーリング表現ⅢB 【実】ヒーリング表現ⅢC 【実】ヒーリング表現ⅢD 【実】卒業制作

対象：2024 年度入学生（24 ●●●●）～

アート･デザイン表現学科 ファッション表現領域

1．教育内容

本領域では、多様化する生活・コミュニティー空間、絶え間なく変化する社会で、人が豊か生きるために、アートとデザインを通して衣服と素材における独自の表現力を探求していきます。そのために、アート・デザイン領域での衣服やテキスタイル・素材の基礎知識や技法を習得すると共に、考える力、思考力を培う学習を行います。また、企業や地域社会とのコラボレーションプロジェクト、他領域との協働授業を通して、ファッション領域の専門性を追求しながら、中間領域を展望することが出来るよう展開していきます。

社会に求められる創造力、独自性のある表現力としなやかな感性を持ち、新しい価値を創造できる人や専門家の育成することを目標としています。

2．カリキュラム編成の特徴

1 年次

「手で考え、つくる」ことで創造的なプロセスを学び、フィジカルな制作体験を通して、衣服の概念の枠を広げていくための立体造形、素材の加工や構成技法を習得します。そして、ドローイングと衣服設計基礎を通して、衣服を身に纏う身体の観察を行い構造の理解を深めます。

2 年次

表現力を拡張していくために、デジタルツール（2D/3D CAD、ファブリックプリンターほか）を用いて、衣服構成やテキスタイルデザインを学び、衣服の新たな可能性を探求します。また、クリエイティブプロデュース表現領域との共同演習ではプロジェクトマネージメントを学び、つくる力と同時に協働力・マネージメント力も養っていきます。

3 年次

他領域との融合的な学びや、地域・施設・企業との連携プログラムやフィールドワークとプロジェクトを通じて、社会との接点を発見し、論理的な思考力や創造性を養います。また、身体表現の授を通して、作品における見せ方、伝え方の方法論を培います。

4 年次

前期はアートとデザインのそれぞれの視点から専門・方向性を定め、各自の制作テーマを考察しながら思考を重ね、制作活動を行なっていきます。後期には卒業制作として、社会のニーズと個性を両立した独自性のある研究成果の発表を行います。

アート・デザイン表現学科 ファッション表現領域 教育目標・人材の養成に関する目的	ファッション表現領域では、暮らしを豊かにする衣服を「手を使って考え・創る」と同時に、進化するテクノロジーやメディアを用いた実践的な学びを通して、多様化する生活･コミュニティー空間、絶え間なく変化する社会に新しい価値を創造することが出来るクリエイターの育成を教育目標とする。

科目区分	ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	授業科目
アート・デザイン表現学科　ファッション表現領域　専門科目	アート・デザイン表現学科においては、以下を学位授与の条件とします。		教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。	
	【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	アートとデザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。	衣服構成、素材およびテキスタイル、身体と空間における基礎的知識と技能を学び、ファッションクリエイションを捉える科目を設置する。	1 年次 【講】ファッション＆テキスタイル概論 【講】ファッションデザイン史 【講】アート・デザイン表現論 【講】宇宙・人間・アート 【演】アート・デザイン表現基礎演習 A 【演】感覚発達演習 【演】造形基礎演習 【演】素材基礎演習 2 年次 【演】ファッション構成演習 【演】テキスタイル表現演習 3 年次 【実】ファッションテキスタイル
	【関心・意欲・態度】 (主体性・開拓力･チームワーク・柔靭性)	アートとデザインの諸活動の実践により、専門領域のみならず、他分野への興味、関心をもちながら課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働しながら、発想し、表現する能力と態度を身に付けている。 時代を経ても変わらない人間の本質と向き合いながら、社会変化、環境変化、技術革新に対応し得るしなやかな精神力とメソッドとを持ち合わせ、自己実現することのできる能力と態度を身に付けている。	他分野・領域との融合・横断の可能性を探求し、ファッション、テキスタイルの学びを深く追求する科目を設置する。	1 年次 【演】ファッション表現演習Ⅰ 【演】マテリアル表現演習 2 年次 【講】身体衣服論 【講】ファッションマネジメント・文化論 【演】アート・デザイン表現演習Ⅰ 【演】サーフェスデザイン演習 【演】プロジェクトマネジメント演習 3 年次 【演】アート・デザイン表現演習Ⅱ 【演】アート・デザイン表現演習Ⅲ 【演】プロジェクトプロデュース演習
	【思考・判断】 (総合的判断力・創出力)	幅広い知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けている。	幅広い知識の収集、プロジェクトや研究活動を通して、多様な社会においてデザイン・クリエイティブ活動に必要なコミュニケーション能力、観察力、発想力、判断力を身に付ける科目を設置する。	2 年次 【演】アート・デザイン表現演習Ⅱ 【演】プロジェクトマネジメント演習 3 年次 【講】心とアートの心理学 【講】心と身体の科学 【演】パフォーマンス・コミュニケーション演習 【演】プロジェクトプロデュース演習 【演】アート・デザイン表現演習Ⅲ
	【技能・表現】 (創作力・実装力)	領域横断型の実践的な学びを通し、専門領域のみならず、他分野との中間領域を開拓するための表現力、実践力を身に付けている。	専門性を追求しながら、他領域との協働を通して中間領域を展望し、講義や演習で得られた知識や技能を活かした表現力と実践力を身につける科目を配置する。	2 年次 【演】ファッション表現演習Ⅱ 3 年次 【演】ファッションクリエイション 【演】プロジェクトプロデュース演習 4 年次 【実】ファッションアート 【実】卒業制作

対象：2024 年度入学生（24 ●●●●）～

アート・デザイン表現学科 スペース表現領域

1．教育内容

人間の様々な活動や休息の場所を心地よく豊かな空間にするには、そこにどんな人が居て、どんなことが起こるのか、どんな情報と出会うのか、といった一人一人の経験を想像しながら考えることが重要です。座った椅子の肌触りや、そこで聞こえる会話、音、音楽。かべに貼られたポスター。そういった様々な要素から人はそれぞれの経験を紡ぎ出します。

スペース表現領域では、こうした経験を構成する様々な要素について一つひとつアプローチしながら空間を考えます。建築、インテリア、都市計画といった、モノやハコを創る技術・知識を得るだけはでなく、人にとって空間の経験とは一体なんなのか？を創造の原点とし、「人間の感覚」にフォーカスしながら、独自の視点で「空間の経験」を創造することのできる人を育てます。

2．カリキュラム編成の特徴

【1 年次】

１年次前期では人間工学、製図、縮尺模型、バーチャルモデリングといった空間を取り扱う際の共通言語となる基礎的な概念や技法を習得します。その上で、後期からはスペース表現領域が柱とする「プリミティブスペース」「テンポラリースペース」「イマーシブスペース」の３つの空間の考え方について、それぞれ「環境の観察」「展示とパフォーマンス」「物語と仮想空間」をテーマに学びます。

【2 年次】

２年次では１年次後期に触れた「プリミティブ」「テンポラリー」「イマーシブ」それぞれの空間概念についてさらに多様なテーマを設定し、演習やプロジェクトを通してより深く学んでゆきます。生命維持と深く結びつく原初的な空間から、コミュニティ空間、演劇や映像、アミューズメントパークなど、発展的な表現に触れながら、自らの専門性を模索していきます。

【3 年次】

２年次までに習得した知識や技法を土台に、独自の表現と専門性を深めてゆきます。学内外の連携プロジェクトを通じて自分の表現が社会とどのように結びつくのか、実践的に考えていくことが重要です。さまざまな空間思想にも触れ、空間の捉え方について深い視点を養っていきます。後期からはゼミに所属し、卒業制作に向け自身の専門性を高めていきます。

【4 年次】

４年次ではゼミやプロジェクトベースの演習を通じでそれぞれの専門性を深く追究していきます。特に４年間の集大成となる卒業制作では、自信が４年間を通して探求してきた社会を豊かに革新するための表現や視点について、造形物、VR、インスタレーション、パフォーマンス、あるいは研究発表といったさまざまなアプローチで、社会に発信することが求められます。

アート・デザイン表現学科 スペース表現領域 教育目標・人材の養成に関する目的	スペース表現領域は新しい体系で空間の概念を捉え、歴史的文脈や人間の本質と向き合いながら、多様な角度から空間の創造性を拡張し、豊な社会を構想することのできるスペースクリエイター／プロデューサーの育成を教育目標とする。

科目区分	ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	授業科目
アート・デザイン表現学科　スペース表現領域　専門科目	アート・デザイン表現学科においては、以下を学位授与の条件とします。		教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。	
	【知識・理解】 （教養力・基礎的専門性）	アートとデザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。	空間を取り扱うのに必要となる基礎的概念や技量（人間工学、製図、モデリング等）を習得し、スペース表現領域が柱とする「プリミティブスペース」「テンポラリースペース」「イマーシブスペース」の３つの空間概念について学ぶ科目を設置する。	１年次 【講】スペース表現概論 【講】空間芸術史 【講】アート・デザイン表現論 【講】宇宙・人間・アート 【講】知覚・感覚概論 【演】アート・デザイン表現基礎演習Ａ 【実】スペース基礎Ⅰ（人間工学） 【実】スペース基礎Ⅱ（製図） 【実】スペース基礎Ⅲ（フィジカルモデリング） 【実】スペース基礎Ⅳ（バーチャルモデリング） 【実】プリミティブスペースⅠ 【実】テンポラリースペースⅠ 【実】イマーシブスペースⅠ ２年次 【実】プリミティブスペースⅡ 【実】テンポラリースペースⅡ 【実】イマーシブスペースⅡ
	【関心・意欲・態度】 （主体性・開拓力･チームワーク・柔靭性）	アートとデザインの諸活動の実践により、専門領域のみならず、他分野への興味、関心をもちながら課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働しながら、発想し、表現する能力と態度を身に付けている。 時代を経ても変わらない人間の本質と向き合いながら、社会変化、環境変化、技術革新に対応し得るしなやかな精神力とメソッドとを持ち合わせ、自己実現することのできる能力と態度を身に付けている。	領域横断型プロジェクトやゼミナール形式の授業を通して、課題に主体的に取り組む姿勢、多様な人々と協働する姿勢、複眼的に空間の概念を捉える力を養う科目を配置する。空間の概念を深め独創的な表現を追求することで自己実現を図る意欲と、将来を展望し自律的に学び続けることができる力を養う科目を配置する。	２年次 【講】生活様式史 【演】アート・デザイン表現演習Ⅰ ３年次 【演】アート・デザイン表現演習Ⅱ 【演】プロジェクトプロデュース演習 【実】３年ゼミナール ４年次 【演】プロジェクトプロデュース演習Ⅱ
	【思考・判断】 （総合的判断力・創出力）	幅広い知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けている。	空間の原初から未来について考察し理解を深めることにより、多様な角度から空間の創造性を思考、発想する力を養う科目を配置する。	２年次 【講】ノンリニアナラティブ 【選講】国際交流文化概論Ａ 【選講】国際交流文化概論Ｂ 【実】ヒューマンスペースⅠ ３年次 【講】芸術社会論 【実】ヒューマンスペースⅡ 【実】ヒューマンスペースⅢ
	【技能・表現】 （創作力・実装力）	領域横断型の実践的な学びを通し、専門領域のみならず、他分野との中間領域を開拓するための表現力、実践力を身に付けている。	専門性を深く研究しつつ、他分野との中間領域を展望することで独自の表現力、表現技法を養うための科目を設置する。	２年次 【講】素材・構法論 【実】プリミティブスペースⅢ 【実】テンポラリースペースⅢ 【実】イマーシブスペースⅢ ３年次 【講】空間思想論 【演】アート・デザイン表現演習Ⅲ ４年次 【実】４年ゼミナール 【実】卒業制作

対象：2024 年度入学生（24 ●●●●）～

アート･デザイン表現学科 クリエイティブ･プロデュース表現領域

1．教育内容

目まぐるしく変化する現代社会の中で、人々は、より良く生きるとは何か、そして幸せとは何かを探し、新しい生き方、新たな価値を求めています。美術、音楽、演劇、映像、デザインなど、ジャンルを問わず、優れた表現には人を幸せにする力が秘められています。そして、そうした作品を体感するクリエイティブな「場」をつくることもまた、世界中のたくさんの幸せを生み出していくことといえます。クリエイティブな「場」とは、「表現」する側とそれを受け止める「観客」がいて、はじめてその素晴らしさが姿を表す世界です。クリエイティブ・プロデュース表現領域では、美術を中心に、音楽、演劇、映像、デザインなど、さまざまな領域のジャンルについて「表現者」の立場でそれらの技法を身につけるとともに、「観客」の立場に立ち、表現の始まる地点と、それを世界につなぐことのできる担い手を育てる教育を行います。大切なのは、知性と感性、そして自由な発想をもってクリエイティブの可能性を広げる方法を自ら生み出すこと。苦しみや葛藤を喜びに変えるユーモアの力と発想力を育み、人間の幸福につながる場とは何かを理論と実践を通して学び、さまざまな表現を通したコミュニケーションの手法と、それらを立体的につなげることのできる柔軟な感性と発想力を身につけ、クリエイションが生まれる場に寄り添いながら社会に開いていく、アートとデザインの可能性を拡張する表現者、プロデューサー、キュレーター、ファシリテーターを育成します。

2．カリキュラム編成の特徴

［1年次］自分自身を知る。表現の基礎を学ぶ。

アーティストの視点、作品への理解を深めることを目的に、美術に関する基礎的な技術と理論を学ぶとともに、音楽、演劇、パフォーマンス、空間表現、映像などの作品制作に挑むことで自分自身と深く向き合い、自己を客体化しセルフプロデュースできる力を養います。また、美術館、学芸員、ディレクターなどの役割と、その可能性についても追求していきます。

［2年次］自分と他者との関係性を考える。

他領域の学生とのコラボレーションを通じて異なる考えや価値観に触れ、共に制作をすることで、自分と他者との関係性を考え、既成概念にとらわれない発想力を身につけます。また、展示技術を学ぶ演習科目や美術館以外のアートプロジェクトなどの今日的な社会的ニーズに呼応するためのマネジメントの基礎演習、また国際文化交流を通し、多様性を尊重する持続可能な社会づくりに対する意識を養います。

［3年次］社会で協働する実践力を養う。

学生が主体となり、アートイベント、コンサート、講演会などを実際に企画し形にすることで、プロデュースやマネジメントの実践力を養います。また、将来のキャリア形成を視野に入れ、学外の企業・組織やアーティストとの共同プロジェクトを通じ、実社会での活動に必要なプレゼンテーション能力やファシリテーション能力を身につける、実践的な授業を実施します。

［4年次］表現の社会的意義、クリエイションを魅力的に伝える術を探求する。

音楽、演劇、パフォーマンス、空間表現、映像の領域を横断する表現を追求し、作品の意義と魅力を伝える術を追求する４年次。３年次までの学びの集大成として卒業制作・研究に取り組み、アーティスト、表現者と社会の架け橋となる場として、卒業制作展を総合プロデュースします。

アート・デザイン表現学科 クリエイティブ・プロデュース表現領域 教育目標・人材の養成に関する目的	クリエイティブ・プロデュース表現領域では、美術、音楽、演劇、映像など、アートとデザインにおけるあらゆるジャンルを横断する表現・知識・技術を身につけ、人々がより良く生きるための「場」と「多様な未来」をつくり出す、プロデューサー、キュレーター、マネージャーなど、総合力のあるクリエイターを育成します。

科目区分	ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	授業科目
アート・デザイン表現学科　クリエイティブ・プロデュース表現領域　専門科目	アート・デザイン表現学科においては、以下を学位授与の条件とします。		教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。	
	【知識・理解】 （教養力・基礎的専門性）	アートとデザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。	美術、音楽、演劇、映像･メディアに関わる基礎理論と実技、プロデュースの基礎を学ぶとともに、多様な未来を育むための国際性の涵養と、コミュニケーション力を身につける科目を配置する。	1 年次 【演】アート・デザイン表現基礎演習 A 【演】音楽プロデュース演習 I 【演】映像＆メディア演習 I 【演】舞台芸術プロデュース演習 I 【演】空間基礎演習 【演】ミュージアムスタディ演習 I 【演】ミュージアムエデュケーション演習 【講】ミュージアムスタディ概論 【講】アート・デザイン表現論 【講】宇宙・人間・アート 2 年次 【演】プロジェクトマネジメント演習 【講】ミュージアム・メディア概論 3 年次 【選講】ノンリニアナラティヴ 【選講】心と身体の科学
	【関心・意欲・態度】 （主体性・開拓力･チームワーク・柔靭性）	アートとデザインの諸活動の実践により、専門領域のみならず、他分野への興味、関心をもちながら課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働しながら、発想し、表現する能力と態度を身に付けている。	ミュージアム、アートセンター等での研修、また、領域を横断したプロジェクトの実践を通し、クリエイティブな環境づくりと、創造的活動による社会貢献のあり方を学ぶ科目を配置する。	1 年次 【演】クリエイティブ・プロデュース演習 I 2 年次 【演】音楽プロデュース演習 II 【演】映像＆メディア演習 II 【演】舞台芸術プロデュース演習 II 【演】ミュージアムスタディ演習 II 3 年次 【演】アート・デザイン表現演習 II 【演】クリエイティブ・プロデュース実習
		時代を経ても変わらない人間の本質と向き合いながら、社会変化、環境変化、技術革新に対応し得るしなやかな精神力とメソッドとを持ち合わせ、自己実現することのできる能力と態度を身に付けている。	設定したテーマ、表現を深く追求し、研究（制作）および総合イベント（展覧会、公演等）の実践を学ぶ科目を配置する。	
	【思考・判断】 （総合的判断力・創出力）	幅広い知識を常に収集しながら多様な人と社会を観察、洞察し、人間中心の視点から時代の変化に柔軟に対応できる思考力、発想力、判断力を身に付けている。	国際文化交流を通し、国際化・多様化する社会と、人々をつなぐコミュニケーションの重要性について理解を深める科目を配置する。	1 年次 【演】クリエイティブコミュニケーション演習 【講】クリエイティブ・プロデュース概論 2 年次 【演】クリエイティブコミュニケーション演習 【講】国際交流文化概論 A 【講】国際交流文化概論 B 【選講】ウェルビーイングとアート論 【選講】芸術社会論 3 年次 【演】クリエイティブ・プロデュース実習
	【技能・表現】 （創作力・実装力）	領域横断型の実践的な学びを通し、専門領域のみならず、他分野との中間領域を開拓するための表現力、実践力を身に付けている。	プロデュースの専門性を深めながら、他領域とのコラボレーションによるプロジェクトを企画・実施し、多様な表現の可能性、社会貢献としてのプロデュースのあり方を、実践を通して学ぶ科目を配置する。	1 年次 【演】クリエイティブ・プロデュース演習 I 2 年次 【演】アート・デザイン表現演習 I 【演】クリエイティブ・プロデュース演習 II 3 年次 【演】アート・デザイン表現演習 III 【演】プロジェクトプロデュース演習 4 年次 【実】総合プロデュース実習 【演】卒業研究